

Alexander Imig (2010), “Ausgehend von AO: Reflexionen zu einem Curriculum für Deutsch an einer japanischen Universität” マリア・ガブリエラ シュミット 他 編『日本と諸外国の言語教育における Can-Do 評価—ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) の適用』, 朝日出版社, pp. 235-249.

Anja Hopf & Bertlinda Vögel (2010), “Kannbeschreibungen im Deutschunterricht an japanischen Universitäten?—ein Erfahrungsbericht zur Lehrwerkskonzeption” マリア・ガブリエラ シュミット 他 編『日本と諸外国の言語教育における Can-Do 評価—ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の適用』, 朝日出版社, pp. 105-110.

阿野 幸一, ベッツ ロバート, 福田 浩子, 永井 典子, 岡山 陽子, 佐々木 美帆, 上田 敦子(2007), 「ヨーロッパ言語共通参照枠に基づく英語能力記述尺度 : 茨城大学総合英語プログラムにおけるケーススタディ Can do statements based on CEFR: a case study of IEP at Ibaraki University」, 『人文コミュニケーション学科論集』 (茨城大学人文学部紀要) , 2, pp. 1-18.

Antonio Smith (2010), “What you can do with can do statements: One teacher’s experience and advice”マリア・ガブリエラ シュミット 他 編『日本と諸外国の言語教育における Can-Do 評価—ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の適用』, 朝日出版社, pp. 200-217.

- 青木惣一 (2006), 「学習開始時と学習終了時の Can-do-statements 比較—プロフィシエ
ンシー・テスト,オーラル・インタビューを外部基準として—」 『アメリカ・カナ
ダ大学連合日本研究センター紀要』, 29, pp. 18-44.
- 荒木史子 (2010), 「情動とコミュニケーション能力の関係について」, 『JACET 関西紀
要』, 12, pp. 80-91.
- CASTELLOTTI, Véronique (2011), « Favoriser une conscience et une compétence plurilingue
au Japon grâce à une démarche portfolio », *Recherches et applications Le français dans le
monde*, n° 50, pp. 67-75.
- CHEVALIER, Luarence (2011), « Contextualisation du CECR au Japon : pour un dialogue
entre cultures éducatives », *Recherches et applications Le français dans le monde*, n° 50, pp.
105-112.
- Crépieux, Gaël et Callens, Philippe (2006), *Spirale* (『スパイラルー日本人初心者のための
フランス語教材』), ピアソン・エデュケーション, 127 p.
- Crépieux, Gaël (2007), “Apports du CECR pour la conceptualisation d'une méthode adoptée
aux apprenants japonais” *Rencontres* 21, pp. 10-15.
- Edison, David (2008), “Towards a world standard of language proficiency: European and
Asian responses to the Common European Framework of Reference for Languages” (外国
語熟達の世界基準に向かって--ヨーロッパとアジアにおける「外国語の学習,教授,
評価のためのヨーロッパ共通参照枠」への反響)『明海大学 外国語学部論集』, 20,
pp. 93-109.

- 江副隆秀 (2005), 「留学生の増加は大学の変革によってもたらされる--2006年留学生激減期を前に, 日本語学校から見た現況と大学への期待」『留学生教育』(留学生教育学会), 10, pp. 9-26.
- Ellen Head (2010), “Using “Can do” lists in a class with elementary school teacher trainees” マリア・ガブリエラ シュミット 他 編『日本と諸外国の言語教育における Can-Do 評価—ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の適用』, 朝日出版社, pp. 266-280.
- 江澤照美 (2007), 「ヨーロッパ言語共通参照枠(MCER)と日本の大学におけるスペイン語教育: 読解授業と教材」『愛知県立大学紀要 言語・文学編』, 39, pp. 133-157.
- 江澤照美 (2010), 「スペイン ELE 教育事情報告--『ヨーロッパ共通参照枠』以後の ELE 教育教材について」『ことばの世界』(愛知県立大学高等言語教育研究所), 2, pp. 69-76.
- 江澤照美 (2010), 「ヨーロッパ共通参照枠とセルバンテス協会のカリキュラムプラン—日本のスペイン語教育への応用—」『イスパニカ』, 54, pp. 211-232.
- Fergus O’Dwyer (2010), “Can do statements at the centre of involving learners in the self-assessment, goal-setting and reflection learning cycle” マリア・ガブリエラ シュミット 他 編『日本と諸外国の言語教育における Can-Do 評価—ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の適用』, 朝日出版社, pp.218-234.
- Fergus O’Dwyer (2011), “Facilitating Coordination through the Use of can do Statements and the CEFR”『大阪大学世界言語研究センター論集』, 5, pp. 101-118.
- 福田浩子 (2003), 「茨城大学教養英語教育の理念と目標: 「『英語が使える日本人』育成のための行動計画」の一環として」『コミュニケーション学科論集』(茨城大学人文学部紀要), 14, pp. 107-134.

福田浩子 (2007), 「自律的な言語学習に向けて--茨城大学総合英語レベル2での試み--」

『人文コミュニケーション学科論集』(茨城大学人文学部紀要), 2, pp. 253-273.

福田浩子 (2007), 「複言語主義における言語意識教育：イギリスの言語意識運動の新たな可能性 Language awareness in plurilingualism : the new potentialities of language

awareness movement originated in the UK」『異文化コミュニケーション研究』(神田

外語大学), 19, pp. 101-119.

福田浩子 (2009), 「日本の英語教育におけるCEFRの応用の可能性」『人文コミュニケーション学科論集』(茨城大学人文学部紀要), 6, pp. 25 -41.

藤原 愛 (2006), 「韓国語会話モジュールとCEFRの関連づけの試み」『言語情報学研

究報告』(東京外国語大学21世紀COEプログラム), 14, pp. 121-134.

藤原三枝子 (2003), 「ヨーロッパにおける言語運用能力評価の共通フレームワーク —

『コミュニケーション能力』の新しい理解をめぐって-」『言語と文化』(甲南大

学国際言語文化センター), 7, pp. 103-124.

藤原三枝子 (2004), 「言語教育ヨーロッパ共通フレームワーク：Gemeinsamer

europäischer Referenzrahmen für Sprachen: lernen, lehren, beurteilenの評価をめぐって」

『言語と文化』(甲南大学国際言語文化センター), 8, pp. 107-124.

藤原三枝子 (2006), 「外国語教育における自律的学習者の養成：「ひたすら、ただた

だ繰り返す」ストラテジーから、学習をマネジメントするストラテジー習得へ

Lernstrategien im Fremdsprachenunterricht zur Forderung der Lernerautonomie 『言語と

文化』(甲南大学国際言語文化センター), 10, pp. 83-114.

藤原三枝子 (2009) , 「日本人中学生・高校生・大学生のドイツ像 ―継続的な異文化理解能力養成のための横断的研究―」 『言語と文化』 (甲南大学国際言語文化センター) ,13 , pp. 37-56.

藤原三枝子 (Mieko Fujiawara) (2010) , 「日本の大学のドイツ教育に「ヨーロッパ言語共通参照枠」を生かす試み―教科書の作成・実施・評価」 マリア・ガブリエラ シュミット 他 編『日本と諸外国の言語教育におけるCan-Do評価―ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) の適用 』 , 朝日出版社, pp. 126-137.

福島祥行 (2009) , 「ポートフォリオによる自律学習への道 : フランス語学習への導入のこころみ(〈第6回 FD研究会〉第二分科会 「なぜ大学で学ぶのか, どのように学ぶのか」を学生自らが考えるには?: 学びへの動機づけを考える)」 『大阪市立大学大学教育』 , 6 (2) , pp. 56-61.

福島祥行 (2011) , 「外国語教育における学習ポートフォリオの活用--初級フランス語における導入のこころみ」 『外国語教育フォーラム』 [含 質疑応答] ([金沢大学]外国語研究センター2010年度講演会記録 言語教育における複言語主義と語学ポートフォリオ--CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)の理念と実践), 5, pp. 14-26.

古石篤子 (2009) , 「日本フランス語教育学会秋季大会シンポジウム報告 「CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠)のインパクト--日本のフランス語教育への「文脈化」を探る」 *Revue japonaise de didactique du français* (日本フランス語教育学会学会誌編集委員会) , 4 (1) , pp. 179-183.

古石篤子 (2009) , 「もっと豊かな言語教育を」 大津由紀雄編著『危機に立つ日本の英語教育』 , 慶應義塾大学出版会, pp. 164-191.

- 古川嘉子 (2010),「生活の中での読む活動と漢字語彙との関係を考えるワークショップ -- 「言語のためのヨーロッパ共通参照枠」(CEFR)を使って日本語の特徴を考えてみましょう」『JSL漢字学習研究会誌』(JSL漢字学習研究会), 2, pp. 15-20.
- 林 良子 (2006),「EUの複言語主義ー学力低下と移民児童の増加に対するドイツ教育現場の試みー」,『近代』(神戸大学国際文化学部), 96, pp. 35-48.
- 原やす江 (2010),「能力記述文 (CDS) を利用した日本語授業のシラバス・デザインの試み--ヨーロッパ共通参照枠 (CEFR) を外部指標とする日本語能力の可視化に向けて Experiment with JSL classroom instruction based on syllabus design using can-do-statements: for visualizing Japanese language skills with CEFR as external index 」『城西国際大学紀要』18 (2), pp. 53-81.
- 林 敏夫 (2009),「アカデミックな分野における「聴解」シラバスー「日本語教育スタンダード」へ向けて」萬美保・村上史展編『グローバル化社会の日本語教育と日本文化』,ひつじ書房, pp. 95-104.
- 平高史也 (2011),「CEFR から見た育成すべき言語能力とは何か」『早稲田日本語教育学』, 9, pp.99-106.
- 平手友彦 (2004),「大学1, 2年次におけるフランス語習得語彙の基準をめぐって : Cadre européen commun de référence, ALTE, 実用フランス語技能検定試験」『広島外国語教育研究』, 7, pp. 63-74.
- 姫田麻利子 (2006),「『欧州共通参照枠』におけるagent/acteurの概念について」リテラシーズ 2, pp. 99-111.
- 姫田麻利子 (2007),「異文化間能力と『言語バイオグラフィ』」『人文科学』(大東文化大学人文科学研究所), 12, pp. 1-20.

- 姫田麻利子 (2008), 「Common European Framework of Reference for Languages (CEFR)と異文化間能力について」『語学教育研究論叢』(平成19年度 語学教育研究所 研究発表会要旨), 25, pp. 338-339.
- Himeta Mariko (2009), “A Propos de la version japonaise du Cadre européen commun de référence : réflexion en compagnie des traducteurs ”, *Recherches et applications*, 46, *Le français dans le monde*, “La circulation internationale des idées en didactiques des langues ”, pp. 78-87.
- HIMETA, Mariko (2011), « CECR et "prise de conscience interculturelle" : une définition pour les étudiants japonais de français », *Recherches et applications Le français dans le monde*, n° 50, pp. 131-139.
- 樋口晶彦 (2006), 「日本の外国語教育改革 : 韓国の第7次教育改革とヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の理念から」『鹿児島大学教育学部研究紀要 教育科学編』, 58, pp. 1-26.
- 樋口晶彦, 樋口高子 (2010), 「東アジア言語共通参照枠を基盤とした日本の外国語教育改革ーヨーロッパ言語共通参照枠の理念からー」, *VERBA*, 34, pp. 349-375.
- Akihiko Higuchi, Lawrence Jyung Zang, Zhou Yan, Min Chan Kyoo, Ikuo Koike (2011), “Future Prospects in Language Education in East Asia: the Common Asian Framework of References for Languages in Learning, Teaching and Assessment (CAFR)”, *The JACET International Convention Proceedings*, pp. 22-27.
- 堀口佐知子, 原田依子, 井本由紀, 跡部智 (2010), “The implementation of a Japanese version of the “European Language Portfolio-Junior version” in Keio: Implications from the perspective of organizational and educational anthropology”マリア・ガブリエラ シ

- ユミット 他 編『日本と諸外国の言語教育におけるCan-Do評価—ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の適用』, 朝日出版社, pp. 138-154.
- 細川英雄 (2008), 「日本語教育学における『実践研究』の意味と課題」『早稲田大学日本語教育学』, 3, pp. 1-9.
- 細川英雄 (2009), 「内省する教師のためのポートフォリオ--フランス・自分誌活動クラス見学記より (特集 英語教師として自分を見つめ直す方法)」『英語教育』57 (13), pp. 16-18.
- 細川英雄 (2009), 「動的で相互構築的な言語教育実践とは何か」 (特集 言語・コミュニケーションの学習・教育と社会言語科学--人間・文化・社会をキーワードとして) Dynamic linguistic education practice based on mutual construction 『社会言語科学』, 12 (1), pp. 32-43.
- 細川英雄 (2010), 「議論形成の場としての複言語・複文化主義—言語教育における海外理論の受容とその文脈化をめぐって」細川英雄・西山教行編『複言語・複文化主義とは何か —ヨーロッパの理念・状況から日本における受容・文脈化へ』, くろしお出版, pp. 148-161.
- 石橋嘉一 (2008), 「ヨーロッパ共通参照枠(CEF)における『コミュニケーション言語能力』」『異文化コミュニケーション研究』(神田外語大学), 18, pp. 161-179.
- 石橋嘉一 (2008), “A Theoretical Framework for Developing an E-Portfolio Based on the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR)” The 8th Distance Learning & the Internet Conference, Proceedings, The Association of Pacific Rim Universities (APRU), pp. 32-37.

- ISHIKAWA Fumiya & ROSEN Evelyne (2011), « Entre adaptation du CECR et ajustement du contexte : proposition de deux outils pour la contextualisation du CECR au Japon », *Recherches et applications Le français dans le monde*, n° 50, pp. 48-56.
- 伊東祐郎 (2006), 「評価の観点から見た日本語教育スタンダード」 『日本語学』 (明治書院), 25, pp.18-25.
- 伊川 徹 (2007), 「CECR, きっと来る, すぐ狂う！」 *Rencontres* (関西フランス語教育研究会), 21, pp. 20-24.
- 伊東祐郎 (2009), 「日本語教育スタンダードをめぐる議論を終えて」 萬美保・村上史展 編『グローバル化社会の日本語教育と日本文化』, ひつじ書房, pp. 64-71.
- 井之川睦美 (2006), 「日本語会話モジュールとCEFRの関連づけの試み」 『言語情報学研究報告』, 14, pp. 105-120.
- 井之川睦美 (2007), 「会話教材とCEFRの関連づけの試み『日本語会話モジュール』の場合 (シンポジウムより良い言語教育に向けて)」 『外国語教育研究』 (外国語教育学会), 10, pp. 101-104.
- 岩崎克己 (2005), 「オンライン型独日パラレルコーパスを利用した自己発見型ドイツ語学習の試み」 『広島外国語教育研究』 8, pp. 11-44.
- 岩崎克己 (2007), 「日本の大学における初修外国語の現状と改革のための一試案—主に, ドイツ語教育を例にして—」 『広島外国語教育研究』, 10, pp. 57-83.
- 神保尚武 (2009), 『英語教員の質的水準の向上を目指した養成・研修・評価・免許制度に関する統合的研究』, 科学研究費補助金基盤研究 (B) 研究成果報告書, 149 p.
- Joshua M.Sargent & James M.Winward-Stuart (2010), “Implementation of a can do based syllabus in an eikaiwa” マリア・ガブリエラ シュミット 他 編『日本と諸外国の言

- 語教育におけるCan-Do評価—ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の適用』, 朝日出版, pp. 250-265.
- 門間俊明, 佐伯啓 (2008), 「CEFの理論と外国語教育」『東北学院大学教養学部論集』, 150, pp.167-181.
- 嘉数勝美 (2005), 「日本語教育スタンダードの構築—第1回国際ラウンドテーブルの成果から」, 国際交流基金『遠近』, 6, pp. 36-41.
- 嘉数勝美 (2006), 「ヨーロッパの統合と日本語教育—CEF (「ヨーロッパ言語教育共通参照枠」)をめぐって—」『日本語学』, 25 (13), pp. 46-58.
- 嘉数勝美 (2007), 「『日本語教育スタンダード』は誰のものか, 誰のためか」『日本語教育振興協会ニュース』, 98, pp. 27-36.
- 嘉数勝美 (2008), 「ヨーロッパ言語共通参照枠組み (CEFR) と日本語教育--アイデンティティとユニバーサリティをめぐって」『応用言語学研究: 明海大学大学院応用言語学研究科紀要』, 10, pp. 9-16.
- 嘉数勝美 (2009), 「国際標準としての「日本語教育スタンダード」の構築—「ヨーロッパ言語共通参照枠組み」(CEFR)の応用と課題」萬美保・村上史展編『グローバル化社会の日本語教育と日本文化』, ひつじ書房, pp. 4-27.
- 嘉数勝美 (2010), 『グローバル化と日本語教育政策—アイデンティティとユニバーサリティの相克から公共性への収斂—』一橋大学大学院言語社会研究科提出博士論文 (論文審査委員 イ・ヨンスク, 五味 政信, 糟谷啓介)
- 嘉数勝美 (2011), 『グローバル化と日本語教育政策: アイデンティティとユニバーサリティの相克から公共性への収斂 (日本語教育学の新潮流2)』, ココ出版, 246 p.

- 柿原武史 (2009) , 「CEFRは地域語・少数言語にいかなる影響を与えうるか—受容のされ方から問題点を探る—」 『社会言語学』 (『社会言語学』 刊行会) , 9, pp. 175-194.
- 神谷まり子 (2010) , 「中国語授業における e-Learning の実践例—現状と課題」 『国士舘大学情報科学センター紀要』 , 31, pp. 23-27.
- 金田智子 (2010) , 「日本語教育におけるCEFR応用の試み」 『英語教育』 2010年10月増刊号, pp. 64-67.
- 木戸紗織 (2008) , 「欧州共通参照枠をめぐるヨーロッパの言語政策」 『Seminarium : ドイツ文学・語学論集』 (大阪市立大学セミナリウム刊行会) , 30, pp. 73-83.
- 金田一真澄・境 一三・倉館健一 (2007) , 「日本での複言語・複文化主義に基づく言語教育の可能性をさぐる行動中心複言語学習プロジェクト (Action Oriented Plurilingual Language Learning Project) の試み」 Bulletin "RENCONTRES" (関西フランス語教育研究会), 21, pp. 60-64.
- 小玉安恵・木山登茂子・有馬淳一 (2007) , 「外国人日本語教師教育へのポートフォリオ評価導入の試み —17年度長期研修Bコース教授法クラスにおける実施報告—」 『日本語教育紀要』 (国際交流基金) , 3, pp. 95-111.
- 小林 潔 (2007) , 「ロシア語教育とヨーロッパ共通参照枠」 中澤英彦・小林潔編, 平成17年度～平成19年度 科学研究費補助金採択課題基盤研究 (B) 17320082 「日露新時代の社会的・言語的現状に対応したロシア語教育文法構築に関する総合的研究」 (研究分担者 (研究代表者 中澤英彦 (東京外国語大学)) , 東京外国語大学, pp. 83-119.
- 小池生夫 (2008a) , 「国際基準を見据えた英語教育—国際的な危機に対応する小池科研の研究成果と提言」 『英語展望』 , 117, pp. 14-19.

小池生夫 (2008b), 「欧州評議会, 中国, 韓国, 台湾と日本の外国語, 英語教育政策の比較—学習指導要領等を中心として—」 『応用言語学研究: 明海大学大学院応用言語学研究科紀要』, 18, pp. 139-157.

小池生夫 (2008c), 「グローバル時代における日本人の英語コミュニケーションの到達目標のナショナル・スタンダード化を目指して」, 『応用言語学研究: 明海大学大学院応用言語学研究科紀要』, 10, pp. 55-65.

小池生夫 (2009), 「CEFR と日本の英語教育の課題」 『英語展望』, 116, pp. 14-17.

国際交流基金 (2009), 『日本語教育スタンダード』 (試行版), 309 p.

国士舘大学外国語部会外国語学習支援プロジェクトチーム編 (2010), 「『外国語ポートフォリオ』導入の試み—「学習者中心主義にたった外国語学習環境整備」プロジェクト報告書」 (国士舘大学外国語部会), 124 p.

駒形千夏 (2008), 「ヨーロッパ言語ポートフォリオ—開発と導入に関する一考察—」 『現代社会文化研究』 (新潟大学), 42, pp. 63-79.

駒形千夏 (2009), 「ヨーロッパ言語ポートフォリオにおける言語バイオグラフィーの意義」 『フランス文化研究』 (新潟大学大学院 現代社会文化研究科), 2, pp. 119-131.

曲 明 (2006), 「中国語会話モジュールとCEFRの関連づけの試み」 『言語情報学研究報告』 (東京外国語大学21世紀COEプログラム), 14, pp. 135-150.

倉智恒夫 (2003), 「ヨーロッパ審議会と文化政策 (1)」 『川村学園女子大学研究紀要』, 14 (2), pp. 161-180

倉智恒夫 (2006), 「ヨーロッパ審議会と文化政策 (2)」 『川村学園女子大学研究紀要』, 17 (2), pp. 135-151.

- 工藤洋路 (2006a) , 「ヨーロッパにおける CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) を利用した言語政策」 『言語情報学研究報告 10 教材開発・評価・第二言語習得』,10 , pp. 155-162.
- 工藤洋路 (2006b) , 「英語会話モジュールとCEFRの関連づけの試み」, 『言語情報学研究報告』 , 14, pp. 173-186
- 真嶋潤子 (2005) , 「ヨーロッパ言語共通参照枠(CEF)1の受け入れ状況の一研究-ドイツの言語教育機関における聞き取り調査より-」 『日本語講座年報 2004-2005』 (大阪外国語大学日本語講座) , 13p.
- 真嶋潤子(2006) , 「ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEF) と言語教育現場の関連づけの一研究 —ある日本語コースの質的研究—」 『ヨーロッパ日本語教育10 2005日本語教育シンポジウム 報告・発表論文集』 (ヨーロッパ日本語教師会) , pp. 177-182.
- 真嶋潤子 (2007) , 「言語教育における到達度評価制度に向けて—CEFRを利用した大阪外国語大学の試み」 『間谷論集』 (大阪外国語大学日本語日本文化教育研究会) , 1, pp. 3-27.
- 真嶋潤子 (2008) , 「ヨーロッパにおける移民への言語施策と Common European Framework of Reference (CEFR) に基づく自国語教育 —フランス・デンマーク・イギリス・ドイツ・オランダ・オーストリア・アイルランドとカナダのケベック州を中心に—」 『平成19年度文化庁委嘱事業 生活者としての外国人のためのモジュール型カリキュラムの開発と学習ツールの作成』 (コミュニカ学院発行) , pp. 75-91.
- 真嶋潤子 (2010) , 「大学の外国語教育におけるCEFRを参照した到達度評価制度の実践 --大阪大学外国語学部の事例を中心に --」 『外国語教育フォーラム』 ([金沢大学]外

- 国語研究センター2009年度研究開発シンポジウム講演記録 外国語教育における到達目標と成績評価), 4, pp. 3-12.
- 真嶋潤子 (Junko Majima) (2010), 「日本の言語教育における「ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)」と「能力記述(can do statement)」の影響—応用可能性に関する一考察」
マリア・ガブリエラ シュミット 他 編『日本と諸外国の言語教育におけるCan-Do
評価—ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の適用 』,朝日出版社 , pp. 49-65.
- 真嶋潤子 (2010), 「CEFRにおける評価とアセスメント」佐藤慎司・熊谷由理編 『アセスメントと日本語教育—新しい評価の理論と実践—』,くろしお出版 , pp.19-43.
- Margit Krause-Ono (2010), “Using German can do statements as model for other languages like Russian and Chinese: A special project”マリア・ガブリエラ シュミット 他 編『日本と諸外国の言語教育におけるCan-Do評価—ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の適用 』,朝日出版社, pp. 111-125.
- Maria Gabriela Schmidt (2010) , “Kannbeschreibungen zur Strukturierung eines freigestalteten Unterrichts auf der Niveauebene B1” マリア・ガブリエラ シュミット 他 編『日本と諸外国の言語教育におけるCan-Do評価—ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)の適用 』, 朝日出版社 , pp. 281-298.
- 松尾 馨, 濱田朱美 (2006) , 「外国語の学習, 教授, 評価のためのヨーロッパ共通参照枠(CEF)の日本語教育における活用—ドイツ・ベルリン州の中等教育日本語ガイドラインの例—」 『世界の日本語教育』,16, pp. 155-168.
- 松本青也 (2009), 「英語教育改革への提言」 『英語展望』,116, pp. 26-31.

森本由佳子, 塩澤真季, 小松知子, 石司えり, 島田徳子 (2011), 「コミュニケーション言語活動の熟達度を表す JF Can-doの作成と評価 -CEFRのA2・B1レベルに基づいて-」 『国際交流基金 日本語教育紀要』, 7, pp. 25-42.

村上京子 (2009), 「外国人就労者のための日本語 ‘Can Do’ statements の開発—パフォーマンス・テストによる妥当性の検討—」 『言語教育評価研究』 (桜美林大学・国際交流基金), 1, pp. 21-33.

永井典子・福田浩子 (2004), 「茨城大学教養教育のレベル別目標設定: COEの共通参照レベルを参考にして」 『茨城大学人文学部紀要』 (コミュニケーション学科論集), 16, pp. 75-105.

永井典子 (2010), “Designing English curricula and courses in Japanese higher education: Using CEFR as a guiding tool” マリア・ガブリエラ シュミット 他 編『日本と諸外国の言語教育におけるCan-Do評価—ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) の適用』, 朝日出版社, pp. 86-104.

Noriko Nagai (2010), “CEFR-based English Curriculum at a Tertiary Institution”, JACET Summer Seminar Proceedings. Theory and Practice in Communicative Language Teaching (CLT): the role of the European Language Portfolio (ELP), pp. 15-20.

長沼君主, 宮嶋万里子 (2006), 「清泉アカデミックCan-Doフレームワーク構築の試みとその課題と展望」 『清泉女子大学紀要』, 54, pp. 43-61.

長沼君主 (2007), 「清泉アカデミックCan-Do尺度を利用した埼玉県外国語科設置校における高校英語教育改善の試み」 『清泉女子大学紀要』, 55, pp. 127-136.

- 長沼君主 (2010), “The range and triangulation of can do statements in Japan”マリア・ガブリエラ シュミット 他 編『日本と諸外国の言語教育におけるCan-Do評価—ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) の適用』, 朝日出版社, pp. 19-34.
- 中川慎二 (2010a), 「『言語学習者のためのポートフォリオ』と自律学習-ヨーロッパ言語共通参照枠をめぐる」『言語と文化』 (関西学院大学言語教育研究センター) 13, pp. 89-101.
- 中川慎二 (2010b), 「ヨーロッパ言語共通参照枠とヨーロッパ学校-ヨーロッパ次元とその実践をめぐる」『Da』 (神戸大学ドイツ文学会) 7, pp. 40-51.
- 中島正剛, 永田真代 (2006), 「CEFRの日本人外国語学習者への適応可能性」『外国語教育研究』 (外国語教育学会), 9, pp. 5-24.
- 中村 隆 (2009), 「中学校英語でのCan-Do Statementsの応用 —日常の到達目標試案—」東京大学外国語教育学研究編著『外国語教育学研究のフロンティア—四技能から異文化理解まで—』, 成美堂, pp. 206-219.
- 根岸雅史 (2005), 「日本における英語能力記述の枠組みの開発」 ARELE : annual review of English language education in Japan (全国英語教育学会), 16, pp. 191-200.
- 根岸雅史 (2006a), 「CEFR の日本人外国語学習者への適用可能性の向上に向けて」, 『言語情報学研究報告』 (東京外国語大学 21 世紀 COE プログラム), 14, pp. 79-102.
- 根岸雅史 (2006b), 「TUFUS 言語モジュールにおける会話モジュールと CEFR の関連づけの試み」『言語情報学研究報告』 (東京外国語大学 21 世紀 COE プログラム), 14, pp. 103-104.
- 根岸雅史 (2006c), 「GTEC for STUDENTS Can-do Statements の妥当性検証研究概観」 ARCLE REVIEW, 1, pp. 96-103.

- 根岸雅史 (2008a) , 「CEFRの日本人学習者への適用可能性」 『応用言語学研究 : 明海大学大学院応用言語学研究科紀要』 ,10, pp. 45-54.
- 根岸雅史 (2008b), 「CEFRリスニングレベルの決定要因を探る」 金谷憲教授還暦記念論文集刊行委員会編『現場型リサーチと実践へのアプローチ : 英語教育・英語学習研究 : 金谷憲教授還暦記念論文集』, 桐原書店, pp. 226-235.
- 根岸雅史 (2009) , 「オーセンティック・リスニング・テキストの CEFR リスニングのレベル判断における諸問題」 ARCLE REVIEW , 3 , pp. 100-109.
- 猫田英伸, 猫田和明 (2002) 「Common European Framework of Reference for Languagesの意義を考える: 日本の英語教育関係者の連携のために」 ARELE : annual review of English language education in Japan 13, 全国英語教育学会, pp. 219-228.
- 猫田英伸 (2003) , 「日本におけるAssessor-oriented Scaleの開発に関する研究--CEFスケールを用いたパイロット調査の結果から」 『教育学研究紀要』(中国四国教育会), 49 (2), pp. 615-620.
- Nekoda Hidenobu (2004) , “An Introduction to the European Language Portfolio : For Learner-centred Language Teaching” International journal of curriculum development and practice (日本教科教育学会) , 6 (1), pp. 9-20.
- Nekoda Hidenobu (2005) , “The Common European Reference Scales: A study of their applicability to Japanese learners of English” 『教育学研究ジャーナル』(The Educational Journal), 創刊号, pp. 41-47.
- Nekoda Hidenobu(2006), “The impact of the Common European Framework on foreign language education in the Netherlands: Focusing on the secondary school level, International Journal of Curriculum and Practice, 8, pp. 49-60.

- 西村よしみ (2006), 「現職日本語教師研修のための聴解授業の評価: 聴解評価基準について (〈特集〉韓国京畿道外国語教育研修院における現職日本語教師研修プログラム)」 『筑波大学留学生センター日本語教育論集』, 21, pp. 281-289.
- 西口光一 (2010), 「自己表現活動中心の基礎日本語教育--カリキュラム, 教材, 授業 (特集 OUSカリキュラムの開発) Theme-based instruction in elementary Japanese: curriculum, materials and classroom activities」 『多文化社会と留学生交流』 (大阪大学留学生センター), 14, pp. 7-20.
- 西山教行, 共著(尾崎真佐子・雪丸尚美) (2006), 「書評: BEACCO Jean-Claude, BYRAM Michael, (2003), *Guide pour l'élaboration des politiques linguistiques éducatives en Europe : de la diversité à l'éducation plurilingue, version intégrale*」, *Revue japonaise de didactique du français*, 1(1), , *Etudes didactiques*, pp. 185-189.
- 西山教行 (2008), 「『欧州共通参照枠』をどのような文脈に位置づけるか」 『ドイツ語教育』, 13, pp. 101-102.
- 西山教行 (2009a), 「『ヨーロッパ言語共通参照枠』の社会政策的文脈と日本での受容」 『言語政策』, 5, pp. 61-75.
- Nishiyama, Noriyuki (2009b), “L’impact du *Cadre européen commun de référence pour les langues* dans l’Asie du Nord-Est : pour une meilleure contextualisation du *CECR*”, *Revue japonaise de didactique du français*, 4 (1), pp. 54-70.
- 西山教行 (2009c), 「ヨーロッパ社会政策からみた『ヨーロッパ言語共通参照枠』と日本の第2外国語教育の展望」 『ドイツ語教育』, 14, pp. 74-83.
- 西山教行 (2010), 「多言語主義から複言語主義へ: ヨーロッパの言語教育思想の展開と深化」 (講演), 『同志社時報』, 129, pp. 44-51.

- Nishiyama, Noriyuki (2010) , “Contextualiser le CECR en Asie du Nord-Est, un rêve ou une source d’inspiration ? ” *Journal of European Languages* (Dayeh university Taiwan), 3, 21p.
- 西山教行 (2010), 「複言語・複文化主義の形成と展開」細川英雄・西山教行編『複言語・複文化主義とは何か ―ヨーロッパの理念・状況から日本における受容・文脈化へ』, くろしお出版 , pp. 22-34.
- 西山教行 (2011), 「外国語教育と複言語主義」『外国語教育フォーラム』[含 質疑応答]([金沢大学]外国語研究センター2010年度講演会記録 言語教育における複言語主義と語学ポートフォリオ--CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)の理念と実践) , 5, pp. 3-13.
- NISHIYAMA, Noriyuki (2011a), « Pour une politique linguistique en faveur de la contextualisation du CECR en Asie du Nord-Est », *Recherches et applications Le français dans le monde*, n° 50, pp. 28-29.
- NISHIYAMA, Noriyuki (2011b), « Enjeux et perspectives pour la formation de la ‘didactique des langues’ au Japon - projet inspiré du CECR et son développement », *Revue japonaise de didactique du français*, vol. 6, n. 1, Etudes didactiques, pp. 281-287.
- 野田小枝子 (2009) , 「医学の世界の英語事情―日本人の英語力はどうあるべきか―」『英語展望』 , 117, pp. 38-43.
- 野口裕之・熊谷龍一・脇田貴文・和田晃子 (2007), 「日本語 Can-do-statements における DIF 項目の検出」『日本言語テスト学会研究紀要』 , 10, pp. 106-118.
- 大木充, 西山教行, ジャン=フランソワ・グラジィアニ (2010), 『グラメール アクテ イーヴ ―文法で複言語・複文化―』 *La Grammaire Active du Français Pour une initiation au plurilinguisme et au pluriculturalisme*, 朝日出版社..

- OHKI, Mitsuru (2011), « Contextualiser l'apprentissage autodirigé dans l'enseignement supérieur au Japon », *Recherches et applications Le français dans le monde*, n° 50, pp. 94-104.
- 岡 秀夫 (2008a), 「英語教育の基準を求めて—日本版CEFRへの取り組み」 『英語展望』, 116, pp. 18-23.
- 岡 秀夫 (2008b), 「CEFRを通して「外国語能力」を考える」 『言語・情報・テキスト』 (東京大学総合文化研究科), 15, pp. 71-84.
- 岡 秀夫, 川成美香, 高田智子, 富永裕子, 中村隆 (2008), 「CEFRjapan—『グローバルな英語コミュニケーション能力』の基準を求めて—」 『第47回(2008年度)JACET全国大会要綱』, pp. 240-241.
- 岡 秀夫 (2009), 「ウィーンを中心とした英語教育改革—CEFRの応用と展開—」 東京大学外国語教育学研究編著『外国語教育学研究のフロンティア—四技能から異文化理解まで—』, 成美堂, pp. 193-205.
- 岡本佐智子 (2010), 「『ヨーロッパ共通参照枠』と日本語教育における社会言語能力」 『北海道文教大学論集』, 11, pp. 85-98.
- 岡崎友愛・古川嘉子・三原龍志 (2011), 「評価基準と評価シートによる高等発表の評価—JFスタンダードを利用して」 『国際交流基金 日本語教育紀要』, 7, pp.119-133.
- 大阪外国語大学教育推進室 (2007), 「これからの外国語教育の方向性—CEFRが拓く可能性を考える—」 平成17年度文部科学省海外先進教育実践支援採択プロジェクト 『「国際標準・言語教育到達度評価制度の構築」成果報告書 I』, 大阪外国語大学.
- 大谷麻美 (2010), 「日本の英語教育への「ヨーロッパ共通参照枠」導入の意義と課題--社会言語能力と言語運用能力からの考察 Significance and issues of CEFR in Japanese

- English education from pragmatic and sociolinguistic perspectives」『人文論叢』(京都女子大学人文学会), 58, pp. 1-17.
- PUNGIER, Marie-Françoise (2011), « L'introduction du CECR ? l'Université Prefectoral d'Osaka, un outil articulatoire et intégrateur de contextes local/global », *Recherches et applications Le français dans le monde*, n° 50, pp. 38-47.
- Paul Collett & Kristen Sullivan (2010), "Considering the use of can do statements to develop learners' self-regulative and metacognitive strategies" マリア・ガブリエラ シュミット 他 編『日本と諸外国の言語教育におけるCan-Do評価—ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の適用』, 朝日出版社, pp. 167-183.
- Rudolf Reientl (2010), "The use of CEFR and can do statements in second foreign language courses in (Western)Japan: Implementation ready?" マリア・ガブリエラ シュミット 他 編『日本と諸外国の言語教育におけるCan-Do評価—ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の適用』, 朝日出版社, pp.70-79.
- 三枝令子 (2003), 「日本語 Can-do-statements の開発」『日本行動計量学会大会発表論文抄録集』31, pp. 102-105.
- 斉田智里 (2008), 「ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) による日本人大学生英語力診断の試み—英語教育達成目標へのCEFR適用可能性の一検討—」『大学英語教育学会紀要』,47, pp. 127-140.
- 境 一三 (2007), 「学術フロンティア推進事業「行動中心複言語学習プロジェクト」の課題と今後の活動について—CEFRをモデルとした言語教育政策の研究を中心に—」『慶應義塾外国語教育研究』, 4, pp. 1-30.

- 境 一三 (2009), 「日本におけるCEFR受容の実態と応用可能性について—言語教育政策立案に向けて—」 『英語展望』, 117, pp.20-25 & 80.
- 酒井志延(2011), 「英語教育における2つの課題とCEFRの文脈化」, *Media, English and Communication* (日本メディア英語学会), No.1, pp. 27-40.
- 櫻井直子 (2010), 「言語教育機関におけるCEFR文脈化の意義—ベルギー成人教育機関での実践例からの考察」 細川英雄・西山教行編『複言語・複文化主義とは何か —ヨーロッパの理念・状況から日本における受容・文脈化へ』, くろしお出版, pp. 65-79.
- 笹島 茂 (編著) (2011), 『CLIL 新しい発想の授業—理科や歴史を外国語で教える!?!』, 三修社, 207 p.
- 佐藤陽子 (2010), “Using can do statements to promote reflective learning” マリア・ガブリエラ シュミット 他 編『日本と諸外国の言語教育における Can-Do 評価—ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の適用』, 朝日出版社, pp.184-199.
- 柴原智代 (2007), 「各国スタンダード作成の意義と日本の課題 —ヨーロッパ, 米国, オーストラリア及び中国, 韓国の比較・分析—」 『国際交流基金日本語教育紀要』, 3, pp. 113-122.
- 島田めぐみ, 三枝令子, 野口裕之(2006), 「日本語 Can-do-statements を利用した言語行動記述の試み :日本語能力試験受験者を対象として」 『世界の日本語教育』 16, pp. 75-88.
- 島田めぐみ, 谷部弘子, 斎藤純男 (2007), 「日本語科目における言語行動目標の設定 : Can-do-statementsを利用して」 『東京学芸大学紀要 総合教育科学系』, 58, pp. 495-505.
- 島田めぐみ, 野口裕之, 谷部弘子 (2009), 「Can-do statementsを利用した教育機関相互の日本語科目の対応づけ」 『日本語教育』, 141, pp. 90-100.

- 島田めぐみ (2010), 「自己評価Can-do statementsの母語別分析」『東アジア日本語教育・日本文化研究』, 13, pp. 79-93.
- 島田めぐみ (2010), 「自己評価 Can-do statements に関する一考察 —客観テストとの比較を通して—」『東京学芸大学紀要 総合教育科学系II』, 61, pp. 267-277.
- 島田徳子 (2010), 「国際交流基金レポート (8) JF日本語教育スタンダード (第2回) JF日本語教育スタンダードの内容と活用方法」『日本語学』, 29 (8), pp. 76-91.
- 塩澤真季, 石司えり, 島田徳子 (2010), 「言語能力の熟達度を表すCan-do 記述の分析 —JF Can-do 作成のためのガイドライン策定に向けて—」『国際交流基金日本語教育紀要』, 6, pp. 23-39.
- 園山大祐 (2007), 「複言語主義に向けたEUの言語教育政策」『比較教育学研究』 35, pp. 17-32.
- 史有為, 張[ホウ]蕾 訳 (2008), 「外国語能力試験と最小言語システム--およびCEFRと中国語教材について」『応用言語学研究 : 明海大学大学院応用言語学研究科紀要』, 10, pp. 17-31.
- 杉野直樹 (2010), 「立命館大学における英語教育の現状と課題」『立命館高等教育研究』, 10, pp. 1-26.
- 杉谷眞佐子 (2010a), 「CEFRの基本を理解するために」『英語教育』, 2010年10月増刊号, pp. 54-55.
- 杉谷眞佐子 (2010b), 「ドイツにおけるCEFRの展開」『英語教育』2010年10月増刊号, pp. 56-59.
- 杉山香織 (2006), 「フランス語会話モジュールとCEFRの関連づけの試み」『言語情報学研究報告』, 14, pp. 151-172.

- 寸田知恵(2010),「日本のスペイン語教育における授業内容の標準化の必要」『外国語教育フォーラム』(関西大学外国語学部), 9号, pp. 53-66.
- 只木 徹 (2008),「『ヨーロッパ言語共通参照枠』と大学英語教育」『名城大学教育年報』, 2, pp. 42-53.
- 只木 徹 (2008),「グローバルな英語力を求めて: 事例研究:名城大学英語教育プログラムと「ヨーロッパ言語共通参照枠組み」(大会テーマ:グローバルな英語コミュニケーション能力とは-英語教育再考)」『JACET全国大会要綱』(社団法人大学英語教育学会), 47, pp. 172-173.
- 投野由紀夫 (2010),「CEFR準拠の日本版英語到達指標の策定へ」『英語教育』2010年10月増刊号, pp. 60-63.
- シュテファン・ツウルンマー, 柘田義一 (2005),「日本のドイツ語教育に見られる『ヨーロッパ共通参照枠』への対応 その1:『能力記録』A1とドイツ語教科書」『神戸大学国際コミュニケーションセンター論集』, 2, pp. 53-67.
- トウルンマー・フカダ, シュテファン (2008),「EUが訴えている『価値としての複言語主義』: その精神史の背景とEU圏外での可能性」, 『神戸大学国際コミュニケーションセンター論集』, 5, pp. 21-45.
- 高島まな (2008),「『国際交流基金日本語スタンダード』と日本語能力試験の改訂」『月刊日本語』, 4, pp. 44-46.
- 高橋美由紀, 柳 善和 (2007),「中学校へ繋ぐための小学校英語活動の評価--ヨーロッパ共通参照枠をもとにした評価基準の構築」, 『小学校英語教育学会紀』, 8, pp. 45-52.

- 高橋美由紀, 柳 善和 (2008), 「体験的な言語学習による文字指導における統一評価基準の研究: ヨーロッパ共通参照枠 (CEFR) をもとにして」 『小学校英語教育学会 紀要』, 9, pp. 103-110.
- 太治和子 (2007), 「ヨーロッパ共通参照枠とフランス語教育: レベル設定・自己評価表・行動主義」 『関西大学外国語教育フォーラム』, 6, pp. 53-68.
- 太治和子 (2008), 「ヨーロッパ共通参照枠におけるレベルB1について」 『関西大学外国語教育フォーラム』, 7, pp. 45-56.
- 玉木佳代子 (2008), 「初修ドイツ語クラスにおける「学習日記」と「学習チェックリスト」の実践—自律的学習に向けての取り組み—」 『立命館高等教育研究』, 8, pp. 163-174.
- 田中 寛 (2005), 「日本語教育と日本語研究の国際化について-欧州の日本語教育を見聞して」 『講座日本語教育』(早稲田大学日本語研究教育センター), 41, pp. 144-164.
- 田中和美 (2007), 「ヨーロッパの現状とイングランドの例--学習基準と文化・連結・コミュニティ」 『日本語教育』(日本語教育学会), 133, pp. 5-10.
- 田中洋也, McLarty Charles, Thollar Simon 他 (2010), 「能力記述を用いた電子ポートフォリオ・英語学習教材の開発 (情報モラル教育・ネットいじめ対策/一般)」 『日本教育工学会研究報告集』, 10 (2), 日本教育工学会, pp. 137-142.
- 寺内 一, 荻原稚佳子, 加藤晴子 他 (2008), 「シンポジウム 日本の外国語教育における学習スタンダードのあり方をめぐって」 『応用言語学研究: 明海大学大学院 応用言語学研究科紀要』, 10, pp. 67-98.
- 寺尾智史 (2008), 「イベリア半島における「コミュニケーションの正常化」とCEFR (ヨーロッパ言語参照枠) の弱小少数言語保全への適用可能性」 『研究報告書 多言語・

- 多民族共存と文化的多様性の維持に関する 国際的・歴史的比較研究』(神戸大学異文化研究交流センター), pp. 3-22.
- 東條加寿子 (2011), 「CEFRと日本の英語教育：一考」 『2010年度大阪女学院大学教職課程機関誌 OJC教職活動報告・研究』, 1, pp. 70-74.
- 梅田紘子 (2007), 「欧州の言語政策—複言語主義と英語重視のパラドックス」 『日欧比較文化研究』, 8, pp. 2-17.
- 宇仁和人 (2010), 「『ヨーロッパ共通参照枠』における外国語教育の概念の言語間の翻訳移行は可能か—フランス語版, 英語版および日本語訳における評価に関する概念と専門用語の比較対照—」 (京都大学大学院人間・環境学研究科提出修士論文), 68 p.
- 和田 稔, 菅 正隆, 白畑知彦 (2009), 「小学校英語教育の課題と可能性」 『英語展望』, 117, p.32-37.
- 和田朋子 (2004), 「TUFSS 言語能力記述モデル開発のための試み：Common European Framework (of Reference for Languages) の考察 (第二言語の教育・評価・習得)」 『言語情報学研究報告』 (東京外国語大学), 5, pp. 89-102.
- 脇田博文 (2009), 「EU の言語教育政策 ポルトガル共和国--新たな「大航海時代」への船出」 『国際文化研究』 (龍谷大学国際文化学会), 13, pp. 73-84.
- 鷺巣由美子 (2009), 「国士舘大学における到達レベルと外国語ポートフォリオ—ヨーロッパの言語共通参照枠 (CEFR) とポートフォリオ (ELP) を参考にして」 『外国語外国文化研究』 (国士舘大学外国語外国文化研究会), 19, pp. 1-28.

鷺巣由美子 (2010), 「『外国語ポートフォリオ』と「到達レベル」—導入の背景, 概要と今後の課題」『<外国語ポートフォリオ> 導入の試み』(国士舘大学外国語部会), pp. 4-10.

Waychert Carsten (2009), 「日本の大学におけるドイツ語教育：欧州共通参照枠の導入とその意義 Der Gemeinsame Europäische Referenzrahmen als Chance für den universitären Deutschunterricht in Japan」, 『関西大学外国語教育フォーラム』, 8, pp. 51-62.

山川智子 (2006), 「複数言語主義・使用・状況の可能性 — 欧州評議会の動向とヨーロッパ人・スクールの試み」『WEB版リテラシーズ』(リテラシーズ研究会), 3 (1), pp. 41-46.

山川智子 (2008), 「欧州評議会・言語政策部門の活動成果と今後の課題—plurilingualism 概念のもつ可能性—」『ヨーロッパ研究』(東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター), 7, pp. 95-114.

山本弘子 (2008), 「日本語学校から見た評価の観点の見直し—ヨーロッパ共通参照枠の視点から—」『日本語教育』, 136, pp. 38-48.

[山本真司\(2009\)「ヨーロッパの言語スタンダードとイタリア北東部の言語状況について」](#)『拡大 EU 諸国における外国語教育政策と その実効性に関する総合的研究』 pp. 197-212.

山本冨里, 新井久容, 古賀和恵, 山内薫 (2010), 「『JF日本語教育スタンダード試行版』における複言語・複文化主義—日本の言語政策の「異なる可能性」を探る」細川英雄・西山教行編『複言語・複文化主義とは何か —ヨーロッパの理念・状況から日本における受容・文脈化へ』, くろしお出版, pp. 107-118.

山森光陽 (2006), 「4 技能評価に関する諸問題」『言語情報学研究報告』, 14, pp. 187-194.

- 山根宏 (2010), 「独検のレベル改訂と CEFR —本学におけるドイツ語教育の高度化—」
『立命館高等教育研究』, 10, pp. 97-112.
- 山崎直樹 (2009), 「人文系学生のための IT スキル共通参照枠」の提案 (特集 人文系学
生への情報教育とカリキュラム) 『漢字文献情報処理研究』, 10, 好文出版,
pp.120-125.
- 柳瀬陽介 (2007), 「複言語主義 (plurilingualism) 批評の試み」『中国地区英語教育学会
研究紀要』, 37, pp. 61-70.
- 横溝紳一郎 (2000), 「ポートフォリオ評価と日本語教育」『日本語教育』, 107, pp. 105-114.
- J.A.ヴァン・エック, J.M.L.トリム 著, 米山朝二, 松沢伸二 訳 (1998), 『新しい英語教
育への指針, 中級学習者レベル (指導要領)』, 大修館書店.
- ヨーロッパ日本語教師会 (2005), 『ヨーロッパにおける日本語教育と *Common European
Framework of Reference for Languages*』, 国際交流基金.
- 萬 美保 (2009), 「言語共通参照枠」を参考にしたプログラムスタンダードの構築—香
港大学日本研究学科必修日本語カリキュラムの例」, 萬美保・村上史展編『グロー
バル化社会の日本語教育と日本文化』, ひつじ書房, pp. 72-94.
- 吉島 茂・大橋理枝 他 (2004), 『外国語教育 II 外国語の学習, 教授, 評価のための
ヨーロッパ共通参照枠』, 朝日出版社.
- 吉島 茂 (2007), 「ヨーロッパの外国語教育を教育観・言語政策から見る」『言語政
策』, 3, pp. 61-81.
- 吉島 茂 (2007), 「ヨーロッパの外国語教育を支える考え方—複言語・複文化主義・行
動主義, 4つの Savoirs, 部分的能力, ELP (Can Do Statement)」, ELEC『英語展望』
増刊号, pp.47-53.

吉島 茂 (2008), 「文化と言語の多様性の中の *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment (CEFR)*--それは基準か?」『応用言語学研究 : 明海大学大学院応用言語学研究科紀要』,10, pp. 33-43.

[在間 進\(2009\)「ドイツにおける CEFR 導入の現状とその改善への基礎研究」](#)『拡大 EU 諸国における外国語教育政策と その実効性に関する総合的研究』 pp. 157-171.

Yannick DEPLAEDT, 武井 由紀(2013)「日本人フランス語学習者のための「学習支援ライブラリー」 : ヨーロッパ言語共通参照枠に基づくプロジェクトの日本の大学への導入に向けて」『名古屋外国語大学外国語学部紀要』 45, pp. 119-14.

小川 敦 (2013)「ヨーロッパ言語共通参照枠、特に複言語主義の考えとドイツ語教育」『人文・自然研究』 7, pp. 148-161.

境 一三 (2014)「『ヨーロッパ言語教育参照枠』(CEFR)は日本の外国語教育に何をもたらしたか?」『複言語・多言語教育研究』日本外国語教育推進機構会誌 NO. 1 pp. 34-52.

原田 依子(2012)「日本における複言語主義教育の可能性について-学生アンケートから見られる日本人大学生の外国語勘-」『高崎経済大学論集』 54, 4, pp. 165-179.

高橋 美由紀, 柳 善和(2014)「韓国と日本の小学校英語教育の到達度と指導の比較研究 : *CEFR-J* の枠組みを基にして」『愛知教育大学教育創造開発機構紀要』 第 4 号 pp. 63-70.

村上 泰介(2014)「ドイツの中等学校を対象とした *CEFR* の受容に関する実態調査 : 日本の学校で行われる外国語教育への示唆」『大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要』 第 11 号 pp. 84-101.

- アンティエ エマヌエル(2014)「*CEFR*および母語からかけ離れた言語の教育と学習：日本の大学のフランス語教育を例に」 『言語文化論叢』(18) pp. 21-35.
- 熊野 七絵, 伊藤 秀明, 蜂須賀 真希子(2013)「*JFS/CEFR*に基づく *JFS* 日本語講座レベル認定試験(A1)の開発」 『国際交流基金日本語教育紀要』(9) pp. 73-88.
- 坂野 永理, 大久保 理恵(2012)「*CEFR* チェックリストを使った日本語能力の自己評価の変化」 『岡山大学国際センター』(8) pp. 179-190.
- 原 隆幸(2011)「日本の言語教育への *CEFR* の適用」 *Journal of hospitality and tourism* (7) pp. 62-68.
- 寺内 一(2011)「日本の英語教育は *CEFR* をどのように受け止めるべきか」 『英語教育』大修館書店 60, 6 pp. 10-12.
- 大谷 麻美(2010)「日本の英語教育への「ヨーロッパ共通参照枠」導入の意義と課題—社会言語能力と言語運用能力からの考察」 『人文論叢』(58) pp. 1-17.
- キース・モロウ(2013)『ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)から学ぶ英語教育』研究社
- 荒木 史子(2014)『外国語コミュニケーション力に情動が及ぼす影響—CEFR 自己評価に基づく分析から』 溪水社
- マリア・ガブリエラ・シュミット 他 (2010)『日本と諸外国の言語教育における Can - Do 評価—ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の適用』 朝日出版社